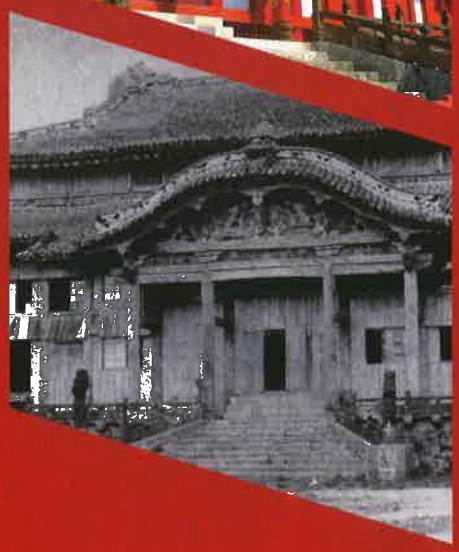
上下の写真：那覇市歴史博物館 提供

近代化の波に輝きを失いつつあった
首里城と琉球の芸術―



「愛さ光」を預かったものは、
自身の生命を光り輝かせる運命（さだめ）にある。

ウナイ神のくれたもの
― 鎌倉芳太郎物語 ―

那覇市制105周年記念式典 記念舞台

日程：令和8（2026）年5月20日（水）　会場：那覇文化芸術劇場なはーと大劇場

令和8年秋の首里城正殿完成に向けて、首里城を3度救ったと言われる故・鎌倉芳太郎の功績を称え、
那覇市制施行105周年記念式典において本作品を製作・上演します。

琉球の“美”を言葉で紡いだウナイ神
紅の城は静かに、そして何度でも甦る

ハイサイ！賀数仁然です。
令和の首里城がこの秋に戻ってきます。
沖縄だけでなく、世界中から注目されている復活です。
平成の首里城の時もそうでしたが、
今なお首里城の大切な資料として活かされているものがあります。
それが鎌倉芳太郎（1898年～1983年）の残したものです。
1921年（大正10年）、縁あって沖縄に渡った23歳の鎌倉芳太郎。
朽ちゆく首里城をはじめ、瀕死の琉球芸術、
そして琉球のウナイたちとの出会いがありました。
近代化と反比例するように消えていこうとする琉球の美。
はかなさの中に命を燃やす若者の「愛さ心」をお楽しみください。

［脚本 / 賀数 仁然］

那覇市制105周年の祝いの席で、首里城を守った鎌倉芳太郎さんを
芝居という形でご紹介する機会をいただき、感謝しております。
講話ではなく芝居？
そう思われている方もいらっしゃるかと思いますが、
芝居は鑑賞された方の心に深く刻まれるメディアです。
書物や講話で歴史を振り返るのも
想像力をかき立てられ楽しいのですが、
芝居は演じる者の表情・声・感情また汗などが観客に生で訴えかけてくる、
空気を伝わり熱や気持ちが同じ時間・空間にいる観客に届いた時、
読む聞く事よりも数十倍の感動が生まれる、
そして擬似体験したかのような感覚になる、
それが芝居だと思っています。短い時間ではありますが、
鎌倉芳太郎さんがいかに首里城を、沖縄の文化を愛したか、
一緒に体験していただければ幸いです。

［演出/当山 彰一］

沖縄文化研究の第一人者 “鎌倉芳太郎”

ストーリー

すっかり沖縄の芸術に魅了されてしまった鎌倉芳太郎。
建築学の権威、伊東忠太の知遇を得て、沖縄芸術・建築の研究を開始。
研究成果を中央で発表し、重要性と保存を訴えます。
一部の知識層に支持されるも、首里城が取り壊されるとの話が…
消えゆく琉球の芸術、若さゆえ空回りする気持ちに揺れ動きます。
琉球のウナイ神たちの言葉に、光を見出そうとする鎌倉青年。
“首里城を2度救った”と語り継がれる鎌倉は、のちに人間国宝になります。

那覇市歴史博物館 提供

うない神(ヲナリ神)とは？

うないとは、「姉妹」を表す沖縄の言葉です。古来琉球では女性は聖なる存在として
兄弟を守護する役割を持っていると考えられてきました。うない達は国の安寧とご加護を神に祈りつづけていました。
やがて聞得大君を頂点とした祭祀組織となり、国事・儀礼・地域行事の中心ともなりましたが、
王国崩壊とともに消滅していきました。

沖縄県立図書館 所蔵

榕樹書林 提供

那覇市歴史博物館 提供

[左]座間味ツル
鎌倉芳太郎、沖縄赴任時の下宿先の女性主人。
アヤアとよばれ、鎌倉芳太郎の母のような存在。

[中]野嵩御殿(尚祥子)
野嵩按司加那志とも呼ばれた。旧王家の女性。尚典王子に嫁ぐ。
夫や長男に先立たれ、王家の非公開の美術品を管理していた。
消えゆく琉球国の美を憂いつつ祈りを続けた。
鎌倉芳太郎の良き理解者でもあり、研究活動も積極的に応援していた。

[右]祝女(ノロ)
王国時代は、国家祭祀から村々の行事の司祭として活躍。
国家公務員として祈りをする女性たちがいた。
王国と同時期にノロ組織は消滅するもしばらくは村々に存在していた。

那覇市歴史博物館 提供

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館 所蔵

[左]戦前の首里城正殿
絵はがき「琉球首里ノ旧城」より。主を失い、輝きを失いつつある戦前の首里城正殿。
年代は不明だが、鎌倉芳太郎と伊藤忠太が取り壊し中止に尽力した時代と思われる。
この後沖縄神社として復活するが、1945年の沖縄線にて焼失。

[右]尚敬王御後絵
「御後絵」というのは、歴代の国王の肖像画を指す。
薨去後、宮廷絵師によって描かれた。本作品は尚敬王御後絵。
戦前鎌倉芳太郎が撮影した10枚の御後絵のひとつ。
18世紀、尚敬王の時代に火災に遭うが再建。この時の資料が残っており、
平成・令和の首里城もこの時代の首里城を復元モデルとしている。

鎌倉 芳太郎 *Yoshitaro Kamakura*

1898年香川県生まれ。東京美術学校(現在の東京藝術大学)卒業後、沖縄にて美術教師となり、
琉球王国時代からの文化・芸術に出会い、研究を続ける。自身も染色家となり1973年人間国宝(型絵染)認定。
石垣市名誉市民。鎌倉芳太郎の研究資料(重要文化財)は、首里城再建にも活用される。

年譜

1898年(明治31年) 父宇一、母ワイの長男として香川県にて誕生
1904年(明治37年) 母ワイの他界に伴い叔母の家へ。日本画を学び始める
1918年(大正7年) 香川県師範学校本科卒業し、東京美術学校図画師範科へ入学
1921年(大正10年) 東京美術学校を卒業し、沖縄県女子師範学校の教諭となる
〃 勤務期間中(2年間)、琉球の芸術に触れ研究開始
1922年(大正11年) 宮古・八重山諸島へ調査
1923年(大正12年) 東京美術学校研究科入学、伊東忠太博士の知遇を得る
1924年(大正13年) 沖縄調査へ準備開始、写真技術を習得、首里城取り壊し差止
〃 伊東と琉球の工芸・建築等の調査へ尚家収蔵など所蔵品を調査
1925年(大正14年) 東京美術学校に帰校、首里城正殿が沖縄神社として国宝指定
〃 美術学校にて「琉球美術芸術展覧会」開催、啓蒙活動開始
1926年(大正15年) 調査継続となり、再び奄美・沖縄本島・宮古・八重山へ調査
1927年(昭和2年) 琉球紅型の澤岻家にて染色方法を学び、美術学校へ戻る
1928年(昭和3年) 琉球美術工芸の調査成果を発表、中央学会にて認められる
1936年(昭和11年) 首里城・浦添グスクなど各所グスク跡地を発掘調査
1944年(昭和19年) 「琉球芸術調査報告書」作成事業に専念
1945年(昭和20年) 米軍沖縄に上陸。芳太郎自宅も戦災に遭う
1957年(昭和32年) 収集・保管しておいた紅型染の型紙600点を沖縄に返還
1960年(昭和35年) 第八回日本伝統工芸展に型絵染にて入選、翌年正会員へ
1971年(昭和46年) 戦後初めて沖縄県へ
1973年(昭和48年) 重要無形文化財「型絵染」保持者(人間国宝)認定
1977年(昭和52年) 石垣市名誉市民として顕彰される
1983年(昭和58年) 伊波普猷賞受賞、自宅にて84歳の生涯を閉じる
1986年(昭和61年) 沖縄県立芸術大学開校に伴い、研究ノート、写真、史料提供

ウナイ神のくれたもの
ー鎌倉芳太郎物語ー

脚本・語り手 / 賀数 仁然

1969年那覇市生まれ。マチグヮー商店街の中で育つ。早稲田大学大学院修了。琉球史研究家。琉球大学講師を経て、沖縄大学地域研究所、沖縄女子短期大学非常勤講師（琉球史・民俗学）。琉球に関するドキュメンタリー・ドラマの歴史監修多数。沖縄タイムスにて歴史コラム週1連載中。著書に「さきがけ歴男塾」①〜④巻。

演出 / 当山 彰一

1966年生まれ。1986年スケバン刑事Ⅱで南野陽子を羽交締めし芸能界デビュー。舞台に活動の場を移し劇団青芸に所属、47都道府県で舞台出演する。2004年沖縄に拠点を移し、劇艶おとな団主宰、（一社）おきなわ芸術文化の箱理事、アトリエ銘苅ベース代表、（一社）全国小劇場ネットワーク共同代表、銘苅ベース演劇研究所所長に就く。

鎌倉芳太郎 / 山内 和将

沖縄県読谷村出身の俳優。大学時代にミュージカルで初舞台を踏み演技の世界へ。舞台に出演しながら声楽を学び、ミュージカルやストレートプレイ、映画やCM、ドラマなどに出演する。近年の出演作に映画「木の上の軍隊」、舞台「琉球オペラアオリヤエ」「常夏の夜の夢！？」「沖縄戦と平和劇」、CM「沖縄海邦銀行」「琉球補聴器」など。

座間味ツル・野嵩御殿 / 山内 千草

1984年、読谷村出身。20歳のときにモデル事務所に所属したことをきっかけに、沖縄県内での芸能活動をスタート。これまでに県内のCM・ドラマや舞台などに多数主演し、現在も役者としてのお仕事を継続中。近年の出演作品は、那覇文化芸術劇場なはーと自主企画「出会い」シリーズ②『花売りの縁オン（ザ）ライン』（2024）、劇団O.Z.E Little Boxシリーズ『九人脳』（2024、2025）など。

舞台監督：當山恵一 / 照明：沖縄舞台 稲嶺隆 / 音響：富山尚 鼓（ちぢん）
マッピング映像：與儀美奈子 MinaLab. / パンフレットデザイン：good rug design
企画：那覇市総務部秘書広報課、那覇市市民文化部文化振興課
制作：那覇文化芸術劇場なはーと、球陽フィルム合同会社 / 主催：那覇市